きいちゃんの
いきいき支え合い通信

この通信では、地域の「顔が見える」関係の中で、日常生活の困りごとを助け合い、支え合う活動が進むことを願い、生活支援に関する県内の先進事例等を発信していきます。



第２８号
令和８年１０月
和歌山県
長寿社会課

就労的活動支援コーディネーター取組事例紹介
有田市 「おたやん」（”おた“すけする人（”やん“））

就労的活動支援コーディネーターの業務と「おたやん」について

有田市では、就労的活動支援コーディネーター（以下、就労CD）として、有田市社会福祉協議会の嶋田さんが令和６年度からご活躍されています。今回、令和７年１１月から、「おたやん」という取組みを開始したことを聞き、「おたやん」の取組内容や、県内の一部の市で配置されている、就労CDの業務内容等について、お話をお伺いしました。

就労CDに着任され、３年目となりますが、今までどのような活動をされてきましたか。

就任当初は、そもそも、「生活支援体制整備事業とは？就労CDとは？」というところから始まりましたが、とりあえず、無我夢中で有田市内のサロンを回り、一緒に活動させていただき、ひたすら高齢者の声を聞きました。同時に、「地域福祉ネットワーク会議」に参画していただいている事業所を中心に訪問し、事業所の声も聞いて回りました。その結果、社会参加や手を貸したい高齢者がいることや、人手が足りない・地域の方と関わりたい事業所があることが分かりました。



嶋田就労CD

※地域福祉ネットワーク会議…地域の福祉・医療・行政・関係機関等が集まって、地域福祉の課題共有や協議をする場

高齢者や事業所の声を聞き、立ち上げた「おたやん」とは、どのような取組みでしょうか。

お手伝いを求めている人や事業所と、手を貸したいという思いを持った方をマッチングする取組みです。現在、介護事業所等、複数の事業所が活動先となり、64名の「おたやん」に登録していただいています。

「おたやん」の取組みに賛同いただく活動先（事業所）を見つけるのが大変だったと思いますが、どうでしたか。

当初は、自分自身、この取組みについての明確なビジョンを描けていなかったということもあり、事業所側から高齢者と活動する意義や、アルバイトを雇うこととの違い等深く問い詰められることもありましたが、対話を重ねることで、理解を得られるようになっていきました。特に、福祉事業所では、従業員の方が外に出たり、会議に入ったりする時間が多く、その時間に、ちょっとしたお手伝いをお願いしたいという要望が多かったです。この「おたやん」の取組みを通じて、支援員等として実際の雇用に繋がる事例も出てきています。

「おたやん」はどのように集めているのでしょうか。

当初は、市内のサロンを訪問する中で個人の方に目星をつけ、個々に案内をしていましたが、ホームページ、社協だより、市の公式ライン、インスタグラム及びフェイスブック等でも周知を行いました。ただ、 最も効果があったのが口コミで、「おたやん」が新たな「おたやん」を集めてきてくれています。

「おたやん」はどんな活動をしていますか？

現在、11のおたやんの活動先があり、こども関係ではこども食堂で調理のお手伝い、小学校の休憩時間にこどもたちと音楽を楽しむピアノコンサートなどの活動をしています。シニア関係では、認知症カフェでのお話相手、月1回自宅に伺ってのお話相手にもなってくれています。

活動先に自分に合ったものがない場合は、得意なことや、やってみたいことをお聞きして、一緒に活動を考えています。例えば、カメラが好きな方は、イベントやサロンで撮影してもらったり、地域で居場所をつくりたいとおっしゃった方と、どんな居場所にしたいかと悩んだりとして、就労CDとして地域の課題をお伝えしながら、それぞれのおたやんがやりたいことを大切にしています。



「おたやん」チラシ（R8.4月時点）

※就労的活動支援コーディネーター
就労的活動の場を提供できる民間企業・団体等と就労的活動の取組を実施したい事業者等とをマッチングし、高齢者個人の特性や希望に合った活動をコーディネートすることにより、役割がある形での高齢者の社会参加等を促進する支援員。

▲「おたやん」の活動メニュー

▲活動の報告

県からのお知らせ

- 県では「生活支援専門アドバイザー派遣事業」を実施しています。是非ご活用をお願いします。
- 皆様の取り組みを紹介させてください。
  県職員が取材に伺いますので下記までご連絡をお願いします。

連絡先：和歌山県長寿社会課　電話：073-441-2521

就労継続支援B型事業所AGALA（活動先）

就労継続支援B型事業所AGALAは、「地域交流古民家Café AGALA」や「杉原製パン所」等、様々な事業を展開されています。

「おたやん」の活動先になった経緯や、「おたやん」への依頼内容について、支援員の中西氏にお話を伺ったところ、嶋田就労CDから、この取組みについての案内を受けたことをきっかけに活動先となり、「おたやん」には、イベントを開催する際のお手伝いや、草引き等、様々な作業をお願いしているとのことでした。

また、有田市社会福祉協議会で、新たに「おたやん」に登録された方々に対する入門講座を実施し、ボランティアの心得を伝えてくれているので、安心して作業を頼むことができ、手が足りない部分を助けてくれるので、非常に助かっているとのことでした。

また、取材当日は、「おたやん」としての就労的活動から、雇用に繋がった方もおられ、まだ慣れないながらも楽しそうに作業を行っている姿が印象的でした。



中西支援員



作業所の様子

みのしままちなかプラットフォーム（活動先）

みのしままちなかプラットフォームは、有田市箕島エリアにおける持続的なまちづくりを推進するための産官学民連携組織です。その取組みの一環として、駄菓子のある屋内公園「ぷらっと」を運営しています。

今回、会長の小川氏に「おたやん」への依頼内容について、お話を伺ったところ、「おたやん」へは、「ぷらっと」の店番や、子どもたちの見守りをお願いしているとのことでした。「ぷらっと」の前は小学生の通学路となっており、駄菓子を買いに訪れる子どもたちと交流を重ねる中で、現在では、「おたやん」と小学生達は、互いに手を振り合う関係性が築かれています。

小川氏は、子どもたちに変わった様子がないかを見守ることが何よりも大切だと仰っており、その役割を「おたやん」にもお願いしていると話されていました。



小川会長



「ぷらっと」の看板

みのしままちなかプラットフォーム（おたやん）

実際に「おたやん」として、主に、みのしままちなかプラットフォームで活動されている、上野山さんにお話を伺いました。

上野山さんは、「おたやん」の登録第１号で、定年退職後、足にしびれが生じる難病を患いましたが、サロン活動のお手伝いを始めたことをきっかけに、嶋田就労CDと出会い、「おたやん」になられたとのことです。半年に１度開催する「おたやん交流会」は、普段はそれぞれの活動先で活躍するおたやんたちが集まり、意見交換をします。上野山さんは第１回の交流会に登壇し、ご自身の経験や活動の思いを発表されたそうです。

その内容を紹介したブログからは、「おたやん」としての活動が、上野山さんにとってかけがえのない生きがいとなっていることが伝わってきます。ぜひ、右下のバーコードからご覧ください。



「おたやん」第１号の上野山さん



小学生の見守りをする「おたやん」



おたやん交流会（R8.3.23）

上野山さんの思い

最後に

取材の最後に、日常の業務を行う上で、心掛けていることや、今後の展望について、お話をお伺いしました。

嶋田就労CD自身、これほど若い世代の参加が増えるとは想定外だったそうで、その広がりに驚きを感じているとのことです。「おたやん」はボランティアセンターのスキームを活用して活動を展開しているので、高齢者だけでなく、高校生をはじめとする若い世代にも参加の輪が広がっています。

心掛けていることとしては、地域の方の困りごとや「やってみたい」という思いを聞いたとき、自分だけで考えるのではなく、社協職員や市職員はもちろん、地域の住民の方々と一緒に考えていくことを大切にされています。

また、今後の展望については、地域の方々と関わっている中で、「移動」に関する困りごとを耳にする機会が多いので、移動支援についても、皆で協力しながら取り組んでいきたいと、お話しくださいました。

就労的活動支援は、高齢者の生きがいづくりや介護予防にも繋がる大切な取組みです。常に明るく、地域に愛される嶋田就労CDが、今後どのような活動を展開していくのか、非常に楽しみです。



店番をする高校生の「おたやん」



嶋田就労CD